



復刊第58号



「国際女医会会議を 成功させる会」に出席して

高知県支部長 窪 敦子

一九七六年に日本で開催される国際女医会会議については、第十六回日本女医会総会議題として、国際女医会誘致を決議し、一九七二年のバリ総会にて決定された通り今秋のリオ・デ・ジャネイロ総会で、国際女医会長のバトンが、アメリカのモラーニ女史から、わが小野春生女史に引きつがれてここに小野春生国際女医会会長が誕生する予定であります。

日本で、日本人の会長を擁して国際女医会が開催されるということは、これこそ日本女医会としてはまことに画期的な出来事であります。

この間の詳細については、日本女医会誌五二号（第十三回国際女医会特集号）に登載されておりますので省略しますが、往年は僅かに一名の代表を送る（外国滞留中の会員に依頼して）のが、せい一ぱいだったと聞き及ぶ国際

つる子姉に誘われて出席しましたが、出席者の思いは皆一つで、諸外国に劣らないように、日本の良いところを印象づけたい、立派な会にしたい、との一念から旺盛な発言があつて、活気のある会となりました。

三神会長から今日迄種々検討して来た諸項目について説明があり、この会で決めて実行に移りたいので協力して欲しいとの要望が述べられました。

1 会場については、帝国ホテルに対して、名称の特異性と、地の利並びに機能上国際会議場として相応しいとの理由で異議なく決定。

2 会期については、夏休を利用してたいとの案に対して甲論乙駁、なかなか決定せず、夏期休暇は長く、家族関係、職業関係から出かけ易く、ホテル側からは閑散期だからサービスが良い（経済上からも）との説に対し、湿度の高い日本の夏の暑さは不快だし、働き難いし、食中毒、台風のおそれ等をあげ、日本の美しい季節の春、秋はいわゆる観光シーズンで混雑すること、春闘のストも考えられる等と従来の総会の開催地と季節とを表にして検討しました。

折から石油ショック以来の経済不安定状態から、二年先の見通し困難果して開催出来るかどうかとの杞憂も出て一時シュンとしたが、最終的に小野会長が、国際女医会本部役員会からの要望を伝えて、何といつても夏休が最も出席し易いこと、万一、二年先に経済状態が悪化しても、最悪の場合には会員が「おにぎり」を持ち寄る位は出来

ると思うので、それでもいいではないか、会場が無ければ女子医大へ頼んでもいいではないか、要は、迎える側の「心」ですと発言されたので、一応夫々に納得出来たように思いました。

3 国際女医会総会組織委員分担を発表、三神会長を委員長として、総務、渉外、学術、会計、募金、地方別委員等を設けて、本日出席者を発起人に入れることについて賛否を求めて決議しました。

さし当てるの急務は、予算を組んで募金を始めることで、募金部長川那部副会長からと、地区別部長森川理事から、その構想の一端が述べられました。が、逐つて、更に検討されることと思

います。何分三十七カ国が参加する国際会議のことですから、季候、風土、習慣、性格等も種々異なる人種の集り故、開催



国際女医会について

国際女医会長
Alma Dea Morani, M. D.

世界の女医はより高い健康水準と健康に関する知識をひろめることによつて、人類のより大きい福祉を目ざすという共通の目標のために手をつなぎます。

目標と目的

国際女医会はその50余年の歴史を通じて、世界的にかかわり合いをもった重

国としてはなかなかきめ細かな配慮を要することは勿論ながら、折角の配慮が却つて逆の効果を現すこともあり得るので、この辺が難しい点と思ひます。やはり場馴れのした小野会長始め国際女医会役員、出席経験者の体験を活かしていただき、これに全会員が、協力して行くより他はないと考えますが、モラーニ現会長の就任挨拶で述べられたという「各人が傍観者でなく積極的に行動するように」とは、何かを企画する時にまことに適切な言葉で、只今の日本女医会にも打つてつけの言葉と思ひます。

(四九・二・一九)

大なる医学上の数々の問題に関する情報を交換するために国際会議の場をもうけてきました。

国際女医会総会及び国連集会における討議が参加者にあたえてきた成果は計り知れないものがあります。これら医学の専門分野に働く女医達は国際女医会によってあたえられるものが大き

国際女医会会議の開催地及びテーマは次の通りです。

| 年度 | 開催地 | テーマ |
|------|---------------------|------------------------------|
| 1924 | ロンドン | 産褥死 |
| 1926 | ブラハ | 結核と妊娠 |
| 1928 | ポロニア (イタリー) | 子供を守る為の医学的手段 |
| 1929 | パリ | 小児及び思春期に於ける性教育 出産時の麻酔について |
| 1934 | ストックホルム | 体育、受胎調節 |
| 1937 | エディンバラ (スコットランド) | 女性に於ける癌の予防 母性死亡率及び流産(墮胎) |
| 1947 | アムステルダム | 戦後再建と女医の責任 |
| 1949 | ハミンリナ (フィンランド) | 主婦に於ける疾病 |
| 1950 | フィラデル フィア | 女性の貧血 主婦業に於ける病理及び衛生 |
| 1954 | リヴィエラ | 更年期 |
| 1956 | ブルゲンストック | 結婚婦人の職場での諸問題 |
| 1958 | ロンドン | 思春期 |
| 1960 | バーデンバーデン | 老年婦人 |
| 1962 | マニラ | 医師と両親教育 |
| 1964 | サンデフィヨルド (ノルウエー) | 慢性疾患の予防 |
| 1966 | ローチェスタ (U.S.A.) | 女医の最高能力の利用 飢える百万人 |
| 1968 | ウィーン | 産業にたづさわる女性の健康 |
| 1970 | メルボルン | トキソプラズマ症 |
| 1972 | パリ | 健康に影響する遺伝及び遺伝因 子について |
| 1974 | リオ・デ・ ジャネイロ | ウィルス疾患 |
| 1976 | 東京 | |

以上のうち何回かは委員会であり、日本にて開催予定の国際会議は第15回である。

い事を認めています。この歴史的あゆみの中で、本会は37ヶ国から1万人余の会員を擁するまでに成長しましたが、その間本会は終始、次のような目標をもって活動してきました。

国際女医会の目標とは

(1) 世界各国において、医学及び関連科学への女性の参加をすすめる、勇気をあたえ奨励する。そしておさめた字問を充分に生かすことができるように彼女らを援助すること、幼ない子供をもつ女医が直面する種々の問題を解決しうる道を探ること。

(2) 女医に共通の関心ある諸問題について、特にこの分野において地域社会に対し女性としてまた、医者としてどのようなユニークな貢献が可能であるかを討論する場を用意すること。

(3) 人種、宗教、政治的背景等の相違を越えて、世界中の女医の間の友情を育て、相互理解を深めること。

(4) 男医との間に残された報酬差別について、また仕事を続けようとする場合にぶつかる差別などを打破すること。

女医によってなされた最近の進歩の当然の結果として国際女医会は従来の目標に、新たに次のいくつかの目的を加えております。

(A) この専門分野に活躍する女医——ことに開発途上の国々の女医が、海外留学とか学会参加等が出来るようscholarship(奨学金)やfellowshipがもたらえるように援助する。

(B) 外国から訪れる女医に、温かい

hospitalityを表し医学機関の現状等につき情報や助言を提供し得るよう用意すること。

(C) 共通課題に協力して対応し国際衛生問題についても協力し合う。

(D) 構成人員は充分にあるにもかかわらず、まだ女医会の組織のない国における女医会結成を促進する。

次の国々は各々の女医会を通じて国際女医会に加盟されている。

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ボリビア、ブラジル、カナダ、セイロン、デンマーク、エクアドル、エジプト、フィンランド、フランス、ドイツ、グアテマラ、ホンコン、インド、イラン、イスラエル、イタリア、日本、韓国、マダガスカル、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ノ

ルウェー、ペルー、フィリピン、台湾、南アフリカ、スペイン、スエーデン、スイス、タイ、イギリス、アメリカ合衆国、ベトナム。

国際女医会は国連の経済社会協議会の諮問機関であり、従ってW. H. O. ならびに UNICEF とまた CIOMS を通じて UNESCO と公的な関係をもっています。

また World Medical Association, International Planned Parenthood Federation, 国際大学婦人協会、国際婦人協会その他の国際協議会との連携を有します。

国際女医会が世界各地の健康向上にはたして来た役割は今や大きく拡大し、皆様の御支援に充分おこたえできるものとなりました。

また女医の専門知識と技術の向上によって近年疾病の予防と治療技術の向上に女医のはたして来た貢献は計り知れないものがあります。

女医は健康に影響する生活上の諸問題と環境との相互関係とか、心身の健康に影響をおよぼす事柄に関し、患者および地域社会を教育することの重要性に特に関心を抱いています。

もしあなたが女医であるなら、あなたの国の女医会に入会することであるたは自動的に国際女医会の会員となります。そしてそうすることによって本会に協力していただけることとなります。

もし女医会がまだ無い場合はあなたがその組織づくりをなさるでしょうし、また会員数が不十分で女医会組織

が困難な場合はめいめいが個人の資格で国際女医会に入会できます。誇りある医学サーヴィスの伝統を持つ、広い基盤に建った国際女医会活動に貢献なさって頂けませんか?

あなたのお志は直接ウィーンの国際女医会本部に、あるいはあなたの国の女医会を通じてお送り下さい。

(国際連絡書記 佐野アヤ子訳)

モラーニ会長略歴

理学士、医学博士
アメリカ外科協会フェロー

第十四回国際女医会々議会長の略歴
一九〇七年三月二十一日生
ペンシルバニア女子医科大学を一九三一年に卒業、現在まで同大学(現在ペンシルバニア医科大学と改名、男女共学)で外科臨床教授形成外科専門医。

アメリカ医師会をはじめ六つの専門学会の会員であり、また、世界数ヶ国の女医会の会員でもある。

また、アメリカ女医会の Blackwell 賞をはじめ五つの賞を受けている。



熊谷美津子

組織委員会報告(一)

副会長 山崎倫子

一九七六年東京で開催される国際女医会会議につきましては会員の皆様からいろいろ御心配をいただいておりまして誠に有難く感謝しております。この会議を成功させるために中核となつて御協力をお願いしなければならぬ評議員の方々及び、かつて国際女医会に御参加なさいました先生方に先般お集りをいただきましたいろいろな御意見をいただきました。これにつきましては窪先生から別に報告がございますので略させていただきます。

日本の最もよい季節に、最も美しい日本をお見せしたい気持は会員全部の願いではありますが、まずはるる諸外国からお出になる外国の女医達の都合と意向に重点を置き、かつ多数御参加願う日本の女医会員の意向をも参考にしまして、再検討をし、日時及び場所を次のように決定しました。

(一) 昭和五十一年八月二十二日から七日間
(二) 東京帝国ホテル
暑い時で日本の皆様には特に御不便をかけること存じますが、諸々の事情も御察下さいますして御協力下さいますようお願い致します。

国際会議組織委員会がすでに設立され、準備に当たって居りますが、そのこまごまとした事務的な準備、運営、事務局業務につきましては、日本コンベンションサービス株式会社に委託することになりました。

先づ予算につきましては現時点で約五千万円と考えていますが、諸物価、賃金等高騰の折から、二年後の経費計上は困難なことであります。何れにしても三十〜四十%は余分に考えておかなければならないと予測しております。

次に、日本女医会及び国際女医会を広く認識して貰うために、それぞれの沿革、そして国際会議を日本で引受けると至った状況、募金趣意書を作成致しました。大蔵省に申請する免税許可申告書類も併せて作成中です。

三月の組織委員会では、募金委員会及び地方委員会から、募金計画案が提出され検討されることになっております。募金計画と方針が決定次第、さきの趣意書をもって募金活動を開始する段階にきております。

世情が大変きびしくなつてきておりますので、前途多難と思いますが、諸先生方の御理解と御協力をお願い申し上げます。

なお、募金、運営、社交行事等につき御意見ございましたら是非お聞かせ下さいませ。

「一九七六年」東京で開催される「国際女医会会議」に団結の手を!

国際女医会会議 組織委員会

春暖の候会員の先生方には益々御健かに御活躍の御事とおよろこび申し上げます。

一月の日本女医会誌上、三神会長より年頭の御挨拶と共に、来る一九七六年、日本で開かれる国際女医会会議の成功の如何はひとえに日本女医会々員全員の一致協力にかかっている趣旨を述べられ先生方の御協力をお願いして下さいました。御承知の様に二年後の開催と申ししてもその準備は今日只今から一刻もゆるがせに出来ない状態

でございます。会員のお一人お一人は夫々大切な医業をお持ちの上その傍らの御力添えにまたねばりませず、加えて昨今の異常な物価高はあらゆる面において会議成功の予測を難かしく致しております。

然し日本開催を引受けました以上何としてもこれを遂行致さねばなりません。三神会長のもと理事会、組織委員会におきましては鋭意努力中でございますが、去る一月二十七日全国から評議員の先生方並びに現在迄に国際女医

会会議出席の先生方に御集いただきました。日本における国際女医会会議を成功させる会」を開催致しました。百人の御出席の方により真剣な討議が行われました。なかならず当日の議論の焦点は会期についてでございます。

「折角ならば日本の最もよい季節に開催して日本の素晴しさを満喫して頂きたい、そのためには夏季開催には断固反対である」

「夏期における開催は休暇のとり易い点で外国の女医さん方の出席に最も都合よくすでに本部からのそのような要請もあり国際会議であるからには外国のお客様に沢山来ていただきたい」という必須条件と夏季にはホテルの諸経費が割引される経済的条件も付随致

資金調達目標(案) 募金部

目標総額 95,000,000円

内訳 A 登録費(参加費)
日本人 50,000円×400名=20,000,000円
外国人 45,000円×300名=13,500,000円
〔登録費差額は英語の通訳費分担によるもの〕
(早期一時払の方には割引の特典を考慮中です)

B 寄付金(1口 20,000円)
1会員 1口 20,000円×2,000名=40,000,000円
国際女医会会議参加者、地方支部長はなるべく

2口以上、本会理事監事は3口以上協力をお願いします。

国際女医会参加者 40,000円×153名=6,120,000円
地方支部長 40,000円×79名=3,160,000円
理事、監事 60,000円×36名=2,160,000円
小計 11,440,000円

2会員外 1口 20,000円×500口=10,000,000円
応募方法
1. 一時払
2. 分割払 イ. 随時分割払 ロ. 毎月分割払
送金方法

- 1. 銀行振込(念書による銀行からの自動振込)
- 2. 振替用紙利用(女医会誌発行時振替用紙同封)
- 3. 郵便局毎月積立2年間貯金(各地の郵便局に申込めば月々集金に来てもらえる)

推進方法として地方地区別に分担目標を定めて会員に協力を願うほか関係各方面に働きかけて会員外の寄付をあつめるよう努めていただく。

以上は募金委員会案です。今後討議されますのでよい方法があれば募金部までご連絡下さるようお願いいたします。

しまして会期は夏(八月二十二日から一週間)と決まりました。前述の強硬な御意見も是非立派に成功させようとの熱意の心からと満場感激致した次第でございます。

先生方には二年後の東京における国際女医学会には是非々々全員出席下さいまして責任を果して頂きたいものと念ずる次第でございます。これは世界中の女医に共通の念願でもございましょう。「語学に弱いので」とおっしゃる先生もありませんが、ウィーン、メルボルン、パリなどに出席された人におたずね下さいませ、黙していても、話を通じなくても「ハート」で理解できます。

世界中の女医の連繋を深める事は何時か何処かで人類の幸せに寄与するであろう事を信じます。是非日本女医学会員一人が外国の女医さん一人を迎えていただくつもりで手をお借し下さいませ。

世界各国からの演題には日本語の同時通訳を致します。勉強の間には晚餐会にガーデンパーティにそれぞれのお国振りを披露して楽しく過す予定でございます。なお「ハート」から比べますと誠に小さい事でございますが、現実的に一番大きな問題は資金でございます。

勿論募金担当者があらゆる方面から一般寄付の援助を頂くように致しておりますが、しかしその中核には日本女医学会全員の力を結集させていただいて成功させようございます。

ご挨拶

山本 杉

政治の姿勢を正し、政治と生活の接点に婦人ならではの政治を志し、十二年間、医系議員として、婦人議員として各方面に、皆様の代表として恥づかしくないはたらきをと念願いたし精進努力を重ねてまいりましたが、この度、六月に施行されます参議院選挙に立候補を断念させて頂きました。

長年に涉ります全国の皆々様の御支援を心から勿体なく感謝申し上げ、謹んで断念の御挨拶をさせて頂きます。

何と申しましたも選挙は勝たなければなりません。この度の断念の最大の理由は、過去の選挙に私の片腕として助けてくれました娘が、昨年、七月以来重病に倒れ、漸く退院はいたしました。

たが、まだ療養を続けなければならず大切な時期に準備がすすめられなかつたことでございます。不敗の体勢で進めましても難中の難といわれます全国区の選挙、準備不十分と不安のなかでは、必勝を期すことは困難でございます。御支援頂いております方々からは未だに、毎日お叱りを頂いておりますが、御許しを願う以外に方法がございません。二回に涉り後援会長として御骨折り頂いてまいりました三村先生にはまことに申訳ありませんが、この上無理を重ねまして御迷惑をかけることはしのびません、何卒御賢察願ひ上げ

ます次第です。

日本経済は驚異的な成長をとげてまいりましたが、今や国民は徹底的な外国依存のこの経済に深い不安を感じ、日々直面いたします物価高、公害問題の解決にもあせりさえ感じているものです。政界の現状を国民の一人としてながめましますとき、手をこまねいているつらさ、一人でも婦人議員をおくり国民生活の安定に、子女の教育の刷新にと心はうづまきますが、皆様に御迷惑をかけますことをおもし、おもしろいこと、かたく決意をいたしました。

国会を離れたとしても国をおもしろい社会を考えますと、いたさなければならぬ沢山の仕事がございます。何らかのかたちでこの真心をとおして日本の国の安泰、将来の発展を考えてゆきたいと念願いたしております。

国際女医学会の日本開催を目前に日本女医学会は益々使命の大きさを加えつつあります。かねがね御挺身の皆様のおはたらきの一端をになう立場で御協力させて頂きますことも私に課せられます使命と存じます。皆様の大きな御海容と御抱擁を願ひ上げまして御挨拶とさせて頂きます。

日本における国際女医学会議を成功させる会に出席して

世田谷支部

及川 富美子

まず初めに、民主社会であるから多

数決によって決った事に対し、もし、それが自分の意見と反対に可決されたとしても、正しい採決ならばそれに協力する事にやぶさかでない事をいって本論に入ります。

まだ記憶されている方々も有る事と思ひますが、毎年春開催されている日本女医学会総会が、昭和四十六年に高知市で開かれました。

その時の提案の一つに国際女医学会議日本招致の議案がありました。

もうそろそろ日本で国際女医学会議(以下国女とす)を開催しては、という声が諸外国の人たちからも有るのであるという訳であります。

その時、まだ日本では無理だと尚早論を説く者、莫大な費用がかかるから出来ない、という者がごもごも立って述べられました。私は次の点を挙げて強調、賛成演説をしました。すなわち

- (1) アジアにおける初めての国女は、是非日本でやり度い。
- (2) 小野春生先生がその時たまたま国女の会長に成られるのであるから、この機に日本でやりたい。
- (3) 諸外国で開かれる国女に出席すれば一人百万円はかかるから、それから思えば楽だ。

この私の説に、多数の方々賛同され、日本に招致しようという事になった。一九七二年のパリ会議の時立候補し、他の立候補国を大きく凌いで、一九七六年の国女はいよいよ日本で開催される事になりました。

した人達の経験とか、新しいアイディアをどんどん取り入れねばならないので、今まで国女に参加した人達で作られているメル会(メルボルン)とか、パリ会とかいう個々の会の垣根をはずして、「国際女医学会議参加者の集い」と、いうようなものを作って一丸とするべきであると、これも、私は三神会長に提案しました。

そして、昨年十一月大阪の新版急ホテルにおけるメル会第一回国際女医学会議参加者の集いに改名され、多数の出席者を得て開かれました。

会が終わったその夜、某氏から「日本における開催日はすでに理事会では一九七六年の七月第三週に決定している」と聞き、居合せた十名程の会員は「日本の最も涼しく、むし暑い夏に開催するなんて、非常識も甚だしい」と反対しました。

翌朝、ホテルの朝食に来ていた女医さん連もほとんどが反対。そこで私は「とにかく単に理事会のみで決定すべき事でなく、準備委員会とか、推進委員会とかを作って日本の女医が挙って立ち上るべきであると思う。そしてイロハのイの字から決定して行くべきである」と、会長に進言しました。

そこで、日本における国際女医学会議を盛んにする会という名目の会が去る一月二十七日に開かれました。さて席上、次の理由で夏の方が良いという説明が某理事からありました。(1) 夏期は会場が安い(ホテルが安いから)。みな仕事をもっているから。

(2) 夏の方が夏休みを利用して外国人が来やすい。
 (3) 夏休み中だから女子医大の学生が使える。
 の三つであります。
 しかし、私は次のように反論しました。

(1) 会議は五、六日で大方の外国人はその後の観光を目的に来る。東京のホテルは夏期で割引かも知れぬが、観光地(日光、箱根等)は夏期は高い。観光して歩く期間の方が長いのだ。

(2) 北半球は夏休みでも南半球は冬である。外人は十一月半ば過ぎるとクリスマスで忙がしくなるというが十一月初めならばOKと会長モラニーもいっていた。

(3) 夏休みでなくとも、いくらでもアルバイト学生はある(一週間足らずの事だ、我々の家の看護婦さんも手があいている、私達が休診して出席するから)

(4) 八月は歌舞伎座は毎年、三波春夫で外人に見せる本格的な歌舞伎は無い。外人の見たがる東京宝塚劇場も夏は無い。

私は、昭和四十一年アメリカで開催された国女以来一年おきに開かれていた各国の会議に四回出席しましたが、どこの国もその国の最もよい時期に開催しています。今年はブラジルで開かれますが十月初めで向うは丁度春です。

私は日本で開かれる国女は立派な、上品な、楽しいそして秩序ある会にし

たいと思ひ、後にも先にもこんな素晴らしい国女は無かつた、後々までもいわれるような会議や、パンクエツトや、そして、レセプションにしたいと念願しておりました。これまで諸外国で開かれました会には、各国の女医さん方がそれぞれのお国の衣裳を着て出席しますので、我々も訪問着を着ました。夏の訪問着を持っている人は少ないし、またとても日本の夏では訪問着など着て行かれせん。

思えば、最初から、ある理事はこの会を安くやるんだといっている、聞きました。「他の国の役員が夏でなければ来られぬ」というような話もありました。そして、一方的な採決の取り方をして夏開催を決定しました。全会員に夏がいいか、秋がいいか、アンケートで聞く方法もあったと思ひます。

今後いつ再び日本で開かれるか解らぬ千歳一週の日における国際女医会会議を、金銭の問題で夏に開催しようと頑張る日本女医会理事陣を、本当に悲しく思いました。

日本女医会の皆様! 一九七六年の夏、この会に出席される時、何故こんな夏なんかにと、思われましたら、どうぞ私が一生懸命反論した事を想い出して下さい。今、署名運動をして夏開催を阻止しようという人もあります。

開花はどこにもありますが、すでに今年行くブラジル等、紅葉を二世、三世に教えるのに困るといふ紅葉の無い国もあります。何故、日本の最もよい時期に開いて日本の良さを美しさを

見せようとしなないのか、ただ悲しく残念に思う者であります。

日本女医会理事会議事録

日時 昭和四十八年十一月十七日
 午後二時—四時

場所 至誠会館四階会議室

出席者 二十九名
 欠席者 七名

庶務報告に先立ち日本コンヴェンションサービス社員による説明あり。

1 庶務報告 久保田常任理事

○山本 杉 勲二等宝冠章

○龍 知恵子 勲四等瑞宝章に叙勲される。

○三神 美和 四十八年十一月二日、日経新聞「女の中の女」に掲載される。

○光のプレゼント、チャリティショーに参加依頼あり。

2 会計報告 守安常任理事

3 議事

①会長より先程のコンヴェンションサービスの説明に追加説明。

国際女医会々議は日本コンヴェンションサービスに依頼すること。

細かいことは追って実行委員会等で検討する。B案、C案、BC案(折衷案)にするかなど。

物価の上昇を充分に考慮の上、事務所用の期間等も、できるだけ短かくし、募金のためにも予算案をなるべく早く作成する。

②チャリティショーには参加しないが一万円寄付 一承認

③公害調査への助成の予算が残っている、公害調査に関する仕事をしている人は請求を出してほしい。

これに対し会長より、山崎副会長の水俣公害調査の請求を出すようにとの発言あり。
 年度末まで考慮しておく。

④小野常任理事より、国際女医会予算案作成にあたり、国際女医会本部について(これは国際女医会本部にて作成されたもので、一九七六年の日本総会より適用)細かい説明あり。

⑤国際女医会総会寄付の件 総費用六五〇〇万、これにより募金を考える。

募金部案の報告あり。

⑥実行委員会—常任理事、森川、藤井両理事、中村西子氏で構成

⑦国際女医会会議(予定)

日曜—午前 登録

月曜—午前 開会式 特別講演

火曜—木曜—午前 講演

十二時—十五時 見学、ショッピング等

十五時—十八時 総会、理事会

金曜 小旅行

⑧国際女医会々長モラーニ女史、十二月十八日、歓迎会を予定。

⑨次回総会(第十九回日本女医会総

会)会議費として石川県支部へ十万円補助 一承認

特別講演費は別に支出する。
 ⑩事務職員ボーナス支給基準決定。

日時 昭和四十九年一月二十七日
 午後二時三十分—四時三十分

場所 至誠会館四階会議室

出席者 二十九名
 欠席者 七名

1 庶務報告 上田常任理事

・会員物故者 谷川光枝(香川) 浜田きみ(目黒) 四八・五・五 田宮功(目黒) 四八・二・四 桜木つま(文京) 四八・十二 黒沢玉代(板橋) 四七・八・十二 杉浦よね(愛知) 四九・一・六 川島常美(兵庫) 四八・五・十三

・年金委員会 四八・十二・二十

於 帝国ホテル 川那部副会長

・年金制度取扱信託に安田信託のみでなく三井信託をいれるよう交渉したが、三井信託は日本医師会との関係もあるため協力は辞退させてもらいたいとのこと。次回理事会後に年金委員会を開いて具体案を検討する。

・国際女医会を成功させる会の通知を発送三二通、返信出席者九九名。

・国際女医会(於ブラジル)会議参加者 四九・一・二六現在

Aコース 四十九名、Bコース 二十五名、Cコース 十七名。

・佐野常任理事病氣見舞に、生花を贈る。

・川島理事母堂逝去・弔電。

・福永常任理事、医療功労賞を受く。

2 会計報告 守安常任理事

3 議事 (1)国際女医学会に関する件 理事会に先立って開かれた国際女医学会を成功させる会の結果の検討を含めて

・会場、帝国ホテル
・開催時(1案)一九七六年八月第二日曜から、(2案)一九七六年八月第三日曜から
ホテルの都合もあるので、上記の何れかにしてはどうか。
・募金
稲葉理事―募金の方法が一般に徹底していないので、はっきりわかり易く説明して配布してほしい。
川那部副会長―先回理事会での案はまだ決定したわけではなく、これから検討してきめてゆく。
福永常任理事―登録費に外国人と日本人の差をつけた事があるか。
小野常任理事―つけた事はない。
今回は英語だけにするので、同時通訳の費用は日本女医学会で持たなければならぬ。(経験上その費用は一八五千元〜八千円位になると思う)登録費は払込みの時期で差をつけるが、その時期、その額を会計で検討する。

募金は七千五百万円(物価上昇のため)とし、登録料以外は寄付によるので、募金の方法を検討する。
〔例〕地区別委員部の毎月千円、二年間の定額貯金案等。
会長、万博協会には相当額の寄付を依頼するつもりである。

(2)その他

日本女医学会誌を国際女医学会本部に送ってほしいとの要望あり。

記念切手図案募集

常任理事 柳瀬 路子

一九七六年の国際女医学会日本開催につきましては組織委員会の各部長が先頭に立ち、総力を挙げて準備にかかっております。その一端として記念切手を発行したいという、フィラテリスト・小出女史の発案により理事会・総会の御賛同を得て、目下懸命の地馴らしをいたしております。



つきましてはその図案を会員のアイデアでまとめる事ができましたら、なお、意義のある事と存じますので、一般会員の御協力をお願いいたします。図柄は花がよろしいようで、出来れば杏をテーマにして頂きたいと存じます。メ切を一応十月末といたします。奮って御応募下さる様お願い申し上げます。(カットの図案は小出女史の試案の一つで、牧野富太郎氏の植物図鑑よりとったものです。御参考迄に掲載いたしました。)

支部だより

北海道支部

佐久間 和子

十二月に入り、師走のあわただしさと共に北国はすっかり冬景色となって参りました。諸先生にはますます御清祥に御活躍のことと存じます。
さて北海道支部の活動について書くようにとのお願いですが、先にお送り申し上げた会誌をお読み下さいますと、大体のことがおわかりいただけます。北海道支部の歴史につきましては、「北海道女医学会のあゆみ」に書かせていただきました。

昭和四十八年五月、初めて本部の総会に出席致しました。東京の皆々様がいかに活発に会のためにお働きか眼のあたりには拝見して、私共の支部がまだまだ消極的であることを痛感致しました。
北海道支部では役員は二年を任期として、各校が当番制になっております。北海道の地域は広いため、評議員は八ブロックの各地区より選出され、年一回、総会前に評議員会をもっております。また研修会は年に三、四回行ない、以前は各科の専門の先生方をお願いして講演していただいておりますが、最近では会員の中で自分の専門分野について語り、ざっくばらんに打ちとけてディスカッションをしております。そして出席できなかった方達には、支部便りの中に演者にまとめて書いていただき必要あれば文献をつけて送っております。最近の例をとってみますと、

「眼と全身疾患について」「皮膚科外来診療について」「子供の精神衛生について」「臨床脳波について」「蘇生法と救急法について」「癌の免疫」「乳児の反射及び脳性麻痺の早期診断法」などでございます。また例会として月一回第三木曜日に(ホテル丸惣)集まっております。これは日時が決っておりますから、皆と話し合いたいと思われる方が気楽に立寄って出席できるようになしております、係は必ず出席しております。



第14回 日本女医学会北海道支部総会
1973. 7. 15 札幌市ホテル

三月には必ず新卒業生のお祝いと歓迎の会を開いて、若い方達に支部を知ってもらうようにしております。しかし現実には若い方達の活動、協力はなかなか得られません。これは、なぜ女医のみの会が必要かという考えや、また今は勉強で忙がしいという理由のためでしょうかと話し合っております。しかしかかさず続けてゆくうちに、理解してもらえらることを信じてつづけて行くつもりでおります。

そのほか、札幌市民の保健活動の一つである「家族の健康を守る婦人の集い」という会の会長を女医学会の会員の一人だけが出ています。この会の活動が女医学会としてわかりにくく不便であり、また会長がご苦勞なさいていることがわかりましたので、札幌市衛生部長と交渉して市にバックアップしてもらおうことになり、副会長の一人も女医学会から選出して会長の補佐をつとめていただくことになりました。

以上のような私共の活動状況をとりとめもなく書きましたが、この中から御参考になることがありましたらしあわせと存じます。なお至誠会や鶴風会、加多乃会に属していない会員(北大、札幌医大出身者等)にとりましては、中央の日本女医学会の動きは、会誌を読ませていただく以外にはよくわからないのが現状のようでございます。

今回当支部の会誌(第二号)を各支部に送らせていただきましたが、そのことにより各支部のご活躍を多少とも知ることができました。しかし本部の方で会誌に全国支部の状況をご記載下されば、なお一層支部のご活躍を色々知ることができまますので、大変嬉しいことと思っております。

昭和四十九年四月二十日印刷
昭和四十九年四月二十五日発行
編集人 大原 一枝
発行人 日本女医学会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医学会
TEL (31) 0968
印刷所 東京都港区白金五丁目一
興栄美術印刷株式会社
題字 吉岡 弥生